

目指せ咬合調整の少ないクラウン

一般的にクラウンの制作は間接法で行われています。現在では印象材や模型材等の進歩と、各作業行程における術式の見直しなどから、精度の高いクラウン制作が可能となりました。

ところが、作業模型上では上下残存歯と同じ高さに作ったクラウンが、咬合調整により隆線がなくなるほど削除されることがあります。調整後にクラウンの咬合面が面接触となった場合は、支台歯と対合歯に過重負担を掛けることになるため、点接触に修正しなければなりません。

間接法で制作されたクラウンは、200～300ミクロン咬合が高くなると言われていています。高くなる要因として、1.人為的な問題、2.材料の問題、3.生体の問題が考えられます。これらの要因が少しでも増加すると、咬合の高いクラウンとなり、歯科医師が行う口腔内での咬合調整に多くの時間が必要となります。

今回は、歯科医師の行う咬合調整が微調整で終わるには、歯科技工士としてどのような事項を注意すると良いか、基本的な注意事項を臨床例と共に述べたいと思います。

皆様の明日の臨床技工にお役に立てれば幸いです。